

令和6年1月31日

保護者様

北九州市立黒畑小学校
校長 濱小路 啓之

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

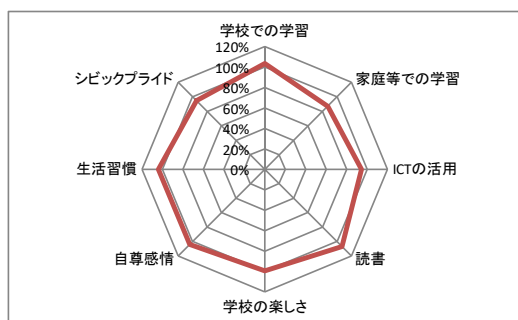
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	全体的に平均正答率をやや上回っている。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「話すこと・聞くこと」の問題が全国平均を上回っていた。
算数	全体的に平均正答率をやや上回っている。特に「数と計算」と「図形」の問題が全国平均を上回っていた。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「人の役に立つ人間になりたい」、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはあります」との問いに対して95%の児童が肯定的に回答している。 ○授業の中で話し合い活動を取り入れた学習指導をしてきた。話し合う活動を通して、主体的、対話的で深い学びが、児童の自己有用感等に影響を与えている可能性がある。今後も学校全体で授業改善を進め、児童が学んだことを、他の学習で生かしていく必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 朝自習と本校独自のくろっこチャレンジノートを活用して、国語や算数の基礎的、基本的な学力の定着を図る。
- 日頃から「子どもが見通しをもって学習ができる」「子どもの考えを深める話し合い活動」「子どもが、「できた・わかった」と実感できるふり返り」ができる授業づくり・授業改善に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学年の発達段階に応じて、探究的なもの(自学習等)や創作的なもの(版画の下絵、工作等)等、宿題の内容を工夫して、家庭学習の定着を図るとともに、学校だよりや学校通信などで家庭への啓発と連携を図る。
- 黒崎中学校区4校統ルールを学期ごとに全校児童に周知徹底し、中学校への移行をスムーズに促す。